

報告要旨

ワークショップ：「インターセクショナリティとジェンダー視点の主流化ーバングラデシュ地域研究から」（「南アジアの社会変容」研究会（2023年7月28日）オンライン開催）

報告：「ラジシャヒ県のムスリム村落と少数民族村落の女性の就労形態から」

報告者：石坂貴美 関東学院大学

バングラデシュで家族の話をするときに「私の妻は何もしていません」という言葉をよく耳にする。同時に現地では、この言葉とともに妻が多くの無償労働を行っている様子をとらえたポスターを見かけた。女性たちは、屋敷内で家事・育児・介護といった再生産労働や家庭菜園や家畜家禽の世話などの自営（家族経営）・自家消費のための生産活動に従事しているが、「何もしていない」と言われる。賃金の支払いを直接受けるものではないからであると考えられる。そのような状況と異なり、少数民族の女性たちが屋敷の外でも日雇い労働者として働いている姿を見かける。本報告では、ラジシャヒ県タノール郡におけるムスリムおよび少数民族の農村調査のデータを基に、女性の職業、就労形態について述べる。今後の課題として、ジェンダーの課題を示すさまざまな指標について、全国平均とこれら2つの村の女性たちの状況を比較することを試みたい。